

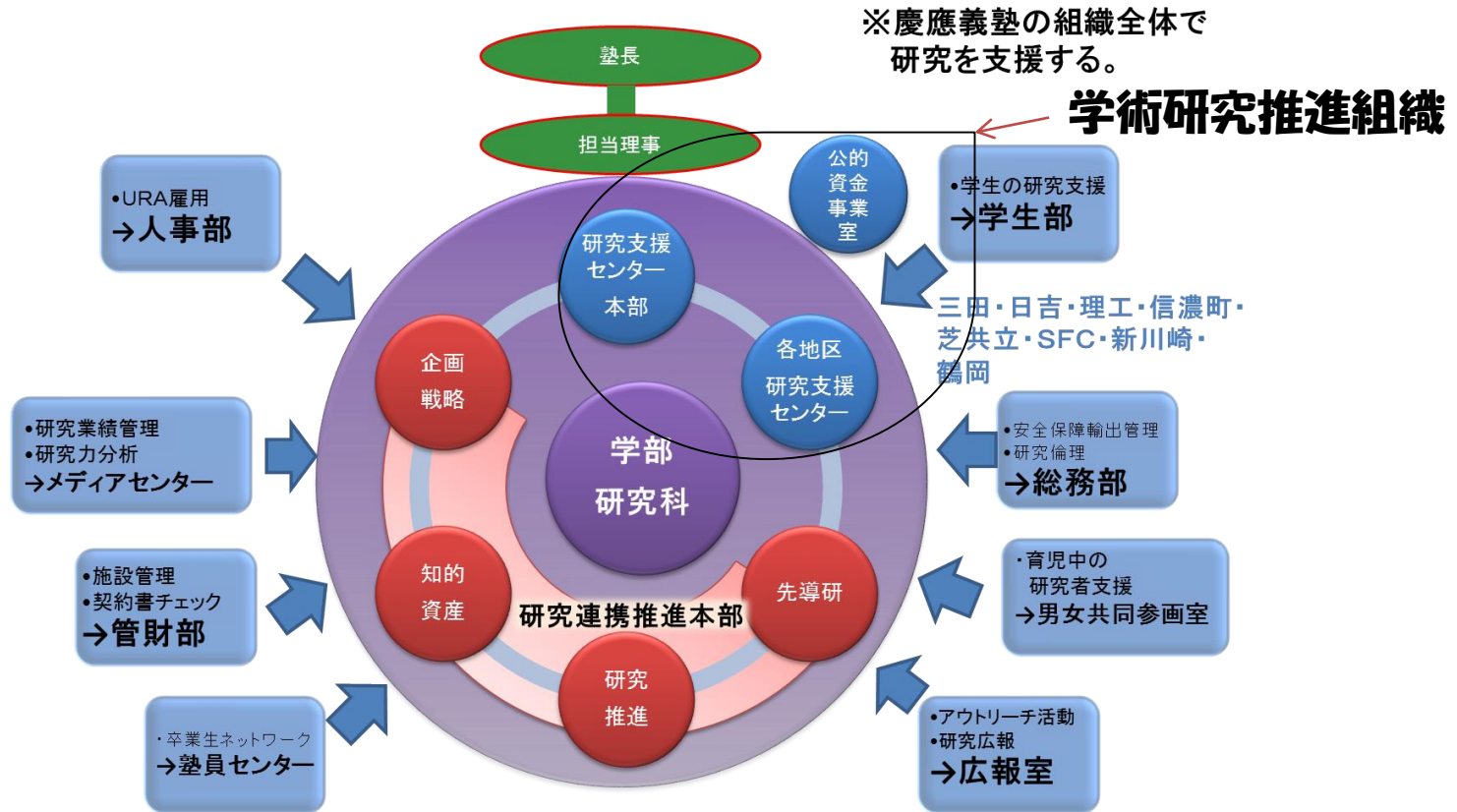


慶應義塾大学の専門員URA (リサーチアドミニストレーター)

慶應義塾大学研究連携推進本部
本部長 菱田公一

研究力強化の方針に基づき取り組む制度改革等

・人事規則等の関係規程の見直し、能力等に応じた処遇、年俸制の導入などの、研究力強化に資する人事労務制度の改革に向けた取組



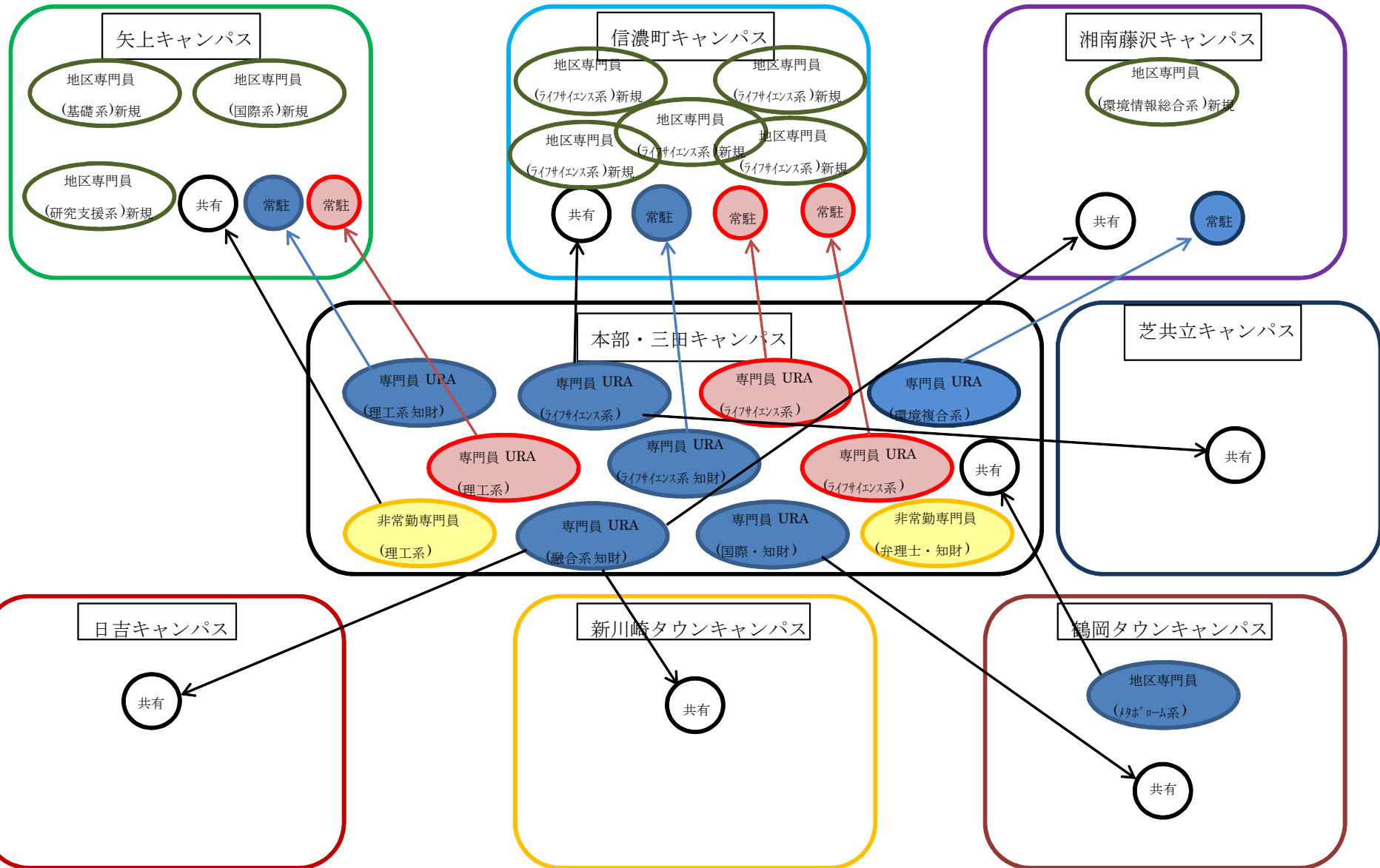
現在進行中の専任職員の人事給与制度の改革を展開しつつ、外部資金による若手研究者育成(博士課程人材育成等、大学院改革)や教育資金・研究資金の一元管理までを視野に入れ、全学的な「学術研究推進支援組織」に組織改編し、URA群を展開する事務体制整備を行う。能力に応じた処遇、年俸制度については、まず専門員、特任教員・研究員について検証し、改革する。

研究連携推進本部所属(専門員URA)の雇用・配置

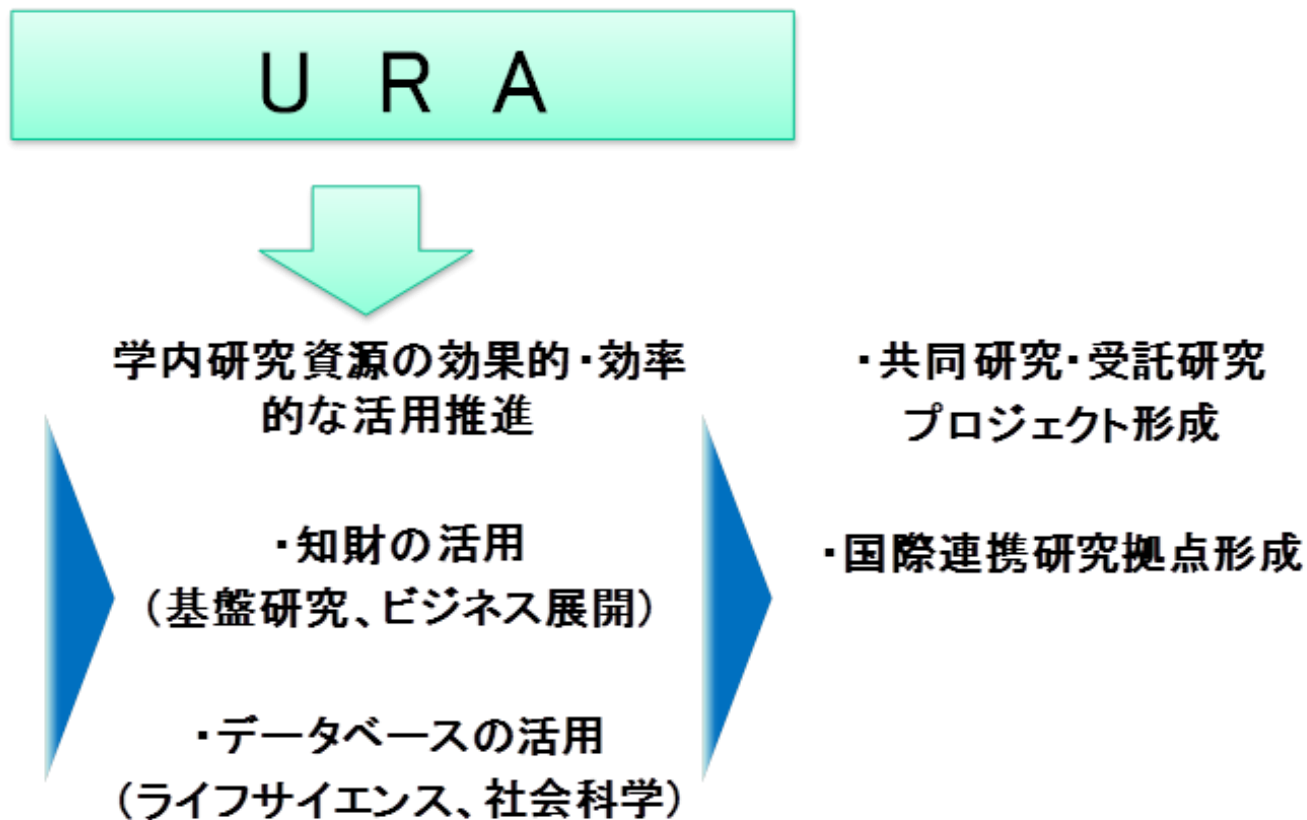
No.	分野(配置)	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
1	国際(本部)		国際連携研究展開・国際特許			
2	融合(本部)		学術研究融合(含 文理融合)			
3	理工(矢上)		材料・エネルギー			
4			システム・通信			
5	ライフサイエンス (信濃町)		医工薬連携			
6			知財・バイオベンチャー設立支援			
7			再生医療・最先端医療			
8			臨床応用・創薬			
9	環境・複合 (湘南藤沢)		環境・複合・産学連携			

共同・受託研究支援、知財(特許・著作権)獲得・活用、研究成果(論文)展開、ベンチャー企業設立支援

専門員URA・地区専門員の全塾展開概念図



研究力強化に向けた、URA 組織のチームとしての活用

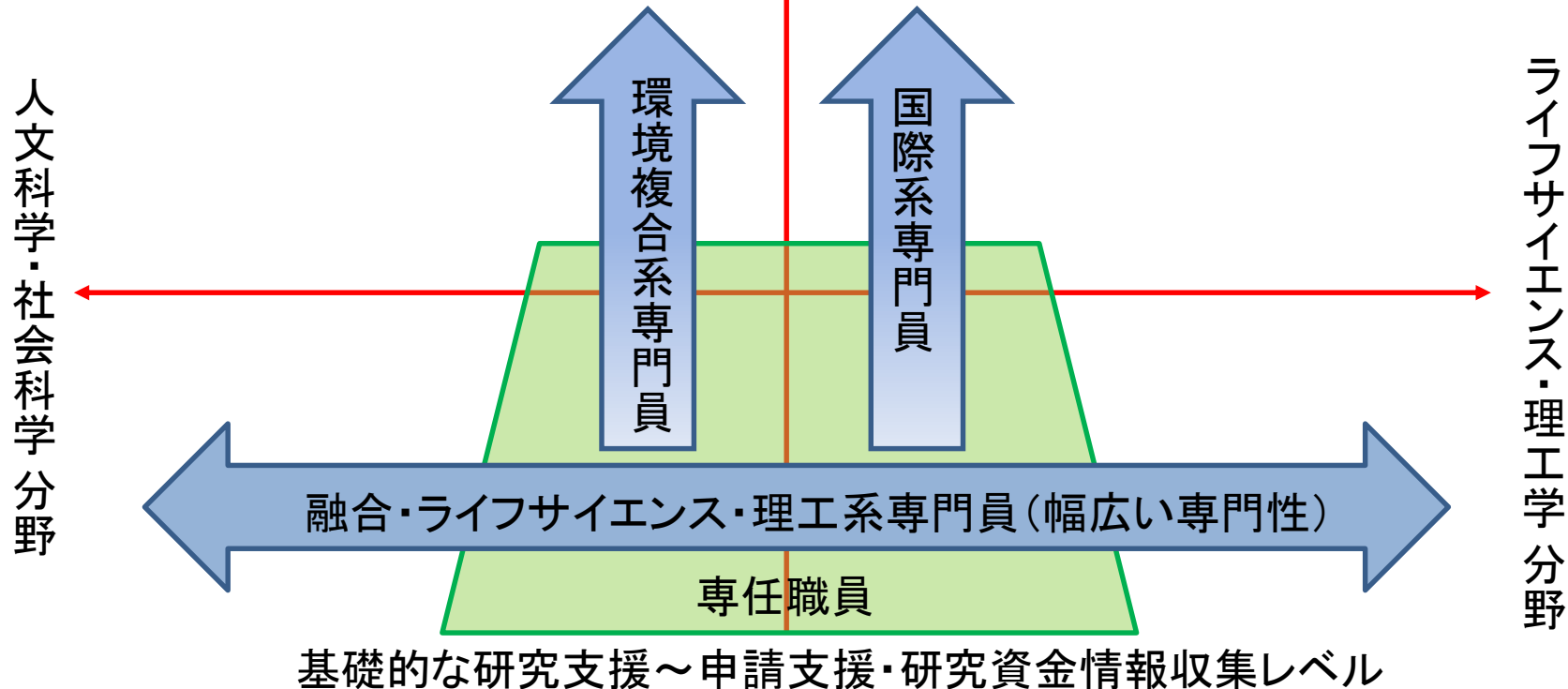


「今日を生きる研究と明日の研究を共に支援する」という研究力強化の方針の下で、急成長分野、重点分野への研究支援体制強化のために、URA群が必要でありながら、予算面で手当てをすることが難しかった研究分野に対して、本事業で雇用するURAを配置し、本事業で展開するさまざまな取り組みに協力を依頼し、モデル事業とする(2013～)。これらの取り組みの成果として当該分野の質の高い研究が量の面でも増加することを目標とする。

URA の業務に係る研修会等の情報共有の場への参加

連携促進・知財を活かした基盤研究支援

～国際共同研究拠点レベル



スキル向上については、URA研修等の実施および他で行われるURA研修へ参加させる(2013～)。URAとしての、高度研究マネジメントにかかる知識、知見、たとえば、融合分野への理解、研究事務全体の理解、申請業務の理解、海外実務経験を増やすことを目標とする。また、URA間の情報交換の場ともしたい。国際化に対応するための諸取り組みも行いたい。また、職員には海外出張を多く経験させ、肌感覚で国際業務に慣れさせ、国際的な研究活動の事務面(人、物、金、メモランダム)の作成)での支援体制の構築を目指す。



ご清聴ありがとうございました。